

黒部市立三日市小学校



新たな一歩を

本校は、明治6年に「第二十八番小学」として創校して以来、「精荒学校」「三日市小学校」と改称しながら、142年の歴史と伝統を積み重ねてきました。その間、校舎も何度か移り変わり、現在の校舎は平成16年1月に移転・新築されたものです。間仕切りを移動することによりオープンスペースにできる教室、天井が高く広々とした体育館、地域の交流ホールとしても活用できる床暖房完備のランチルーム、自然とふれ合えるビオトープなど、恵まれた環境のもと、子供たちは、「元気で仲よくがんばる子」を目指して、学校生活を送っています。黒部市の中心部に位置し、市庁舎、児童センター等の公共施設や商店街、古くからの史跡等が校区内に多くあることも本校の特徴です。子供たちは、地域探検や地域の方々との交流活動を通して、自分たちの住むこの「三日市」に対する愛着を深め、誇りに思う気持ちを高めています。

本校の伝統の一つに、文集「さくらんぼ」があります。児童による詩や作文を印刷・製本し、冊子にまとめたもので、どの子も6年間に1度は作品が掲載されることになっています。昭和30年以前から休むことなく発行され、今年度3月に発行されるものは第72号となります。これまで本校を巣立った多くの卒業生がその時々思いを真剣に自分の言葉で綴り、発行され続けてきたこの文集は、三日市小学校の伝統であり、宝物でもあります。

今年度末、本校は閉校という大きな節目を迎え、4月からは、前沢小学校と統合して「桜井小学校」となります。創校の精神である「精荒」（知識を身に付けるだけでなく、自ら学習に励み立派な大人になること）の教えを忘れず、新たな一歩を踏み出していきたいと思います。

長い歴史に幕・統合 新たに「桜井小学校」に

黒部市立前沢小学校



「弘麗と智徳の精神」を受け継いで

本校は、明治6年9月20日朝倉次平方に前沢学校として創校し、明治8年に「弘麗小学校」と改称されました。「弘麗」は「心や徳が広く、そして清らかで健やかな子供に育てほしい」という願いであり、前庭花壇にその文字が刻まれた大きな石碑があります。創校当初から今日まで「弘麗の精神」は大切に受け継がれてきました。

そして、「前沢小学校校歌」が昭和28年に制定され、昭和29年「黒部市立前沢小学校」と改称されました。校歌の作詞者は、戦艦「武蔵」第三代艦長であり、黒部市初代教育長の朝倉豊次氏です。「智徳のはなのにおうかな ああ我が前沢校に誉れあれ」という歌詞からは、前沢地区出身である朝倉氏の前沢小学校に対する深い思いが伝わります。

閉校となる今年度、「よみがえれ！前沢小学校校歌」を合い言葉に、校歌の二部合唱に挑戦しました。校歌制定の際に寄贈されたピアノの音色とともに、全校児童73名が奏でる美しいハーモニーによって、制定時の感動が再びよみがえりました。「智徳の精神」は、智徳の花びらが匂い出ずる様子に見える校章からもうかがい知ることができます。

また、今年度は「ありがとう前沢小学校」というスローガンの下、「名前+挨拶」で推進する挨拶運動と人権教育の重視、学校への感謝の気持ちを出せる愛校心の育成、学力向上を目指しての主体性と自尊感情の育成に力を入れてきました。大運動会や夏祭りなど、地域の皆様と一緒に活動する中で、地域への感謝の思いも伝えてきました。

前沢小学校142年間の歩みに感謝するとともに、「弘麗と智徳の精神」をしっかりと受け継ぎ、次の一歩へとつないでほしいと願います。